

報 告

- ◎ [成果発表会「野生動物による農林業被害をいかに防ぐか？」を開催](#)
- ◎ [「アグリビジネス創出フェア2006」に出展](#)
- ◎ [針原農林水産大臣官房予算課長が農林研究団地を視察](#)
- ◎ [「日本竹筒ハチ図鑑」が日本昆虫学会の2006年「あきつ賞」を受賞](#)

◎ **成果発表会「野生動物による農林業被害をいかに防ぐか？」を開催**

10月24日、東京大学弥生講堂一条ホールにおいて、成果発表会「野生動物による農林業被害をいかに防ぐか？」を、農林水産省農林水産技術会議事務局との共催で開催しました。本発表会は、平成13年度から平成17年度にかけて行われた農林水産技術会議事務局プロジェクト研究「野生鳥獣による農林業被害軽減のための農林生態系管理技術の開発」（実施機関：森林総合研究所ほか）での研究成果を広く普及することを目的としたものです。

野生動物の被害対策に携わっている都道府県担当者、大学や研究機関、マスコミなどから260名の参加となりました。

発表会では、野生動物の生態と農林業被害防止策について9課題の発表が行われ、それぞれの課題について活発な質疑応答が行われました。

◎ **「アグリビジネス創出フェア2006」に出展**

農林水産省の主催、当所を含む9独立行政法人及び1公益法人の共催で、10月25日、26日の両日、「アグリビジネス創出フェア2006」が東京国際フォーラム展示ホールで昨年に引き続き開催されました。主催者を代表して、高橋農林水産技術会議事務局局長から挨拶があり、同局長他4名によるテープカットでフェアの幕を開けました。

産学官の各分野から、102団体の出展があり、フェアへの来場者は2日間で約5,000名でした。

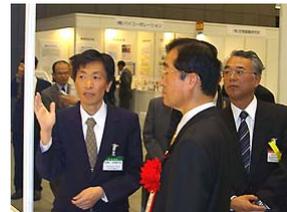
当所からは、「森林と林産物をめぐる二酸化炭素と炭素の流れ」、「CDM（クリーン開発メカニズム）植林の実施支援ツールの開発」（清野嘉之）、「亜臨界水処理による木材の高速糖化」（松永正弘）、「微生物機能を適用した木質バイオマス資源のマテリアル変換とその応用」（中村雅哉）、「セロピオースの製造方法」（野尻昌信）、「木質バイオマスの有用ケミカルスへの変換」（山田竜彦）、「オイルパーム空果房繊維のナリブ化」（田中良平）、「セルロースフィルムの音響材料への応用」（戸川英二）の8つのテーマで出展を行いました。研究の成果を来訪者に直にアピールするプレゼンテーションステージでは、田中室長が発表しました。

当所のブースには松岡農林水産大臣、山本農林水産副大臣はじめ多くの方々立ち寄っていただき、森林、環境、木材利用に対する高い関心をもちたれていることを強く感じました。

本フェアは、来年も引き続き開催する予定です。皆様のお越しをお待ちいたします。



当所展示ブースの様子



松岡農林水産大臣に説明する眞柄室長

◎ **針原農林水産大臣官房予算課長が農林研究団地を視察**

平成18年11月6日～7日に針原寿朗農林水産大臣官房予算課長が農林研究団地を視察されました。

6日につくばリサーチギャラリーの森林総合研究所展示ブースで石塚理事から研究概要説明と地球温暖化対策にむけた研究等についての紹介を受けられました。

◎ **「日本竹筒ハチ図鑑」が日本昆虫学会の2006年「あきつ賞」を受賞**

当所ホームページ森林生物情報データベースの「日本竹筒ハチ図鑑」が、日本昆虫学会の2006年あきつ賞を受賞しました。

※あきつ賞とは、日本昆虫学会電子化推進委員会が、学術的昆虫学分野や一般向けの昆虫学教育普及分野に関する優秀なホームページを表彰するものです。



<http://www.ffpri.affrc.go.jp/labs/seibut/bamboohymeno/index-j.htm>